

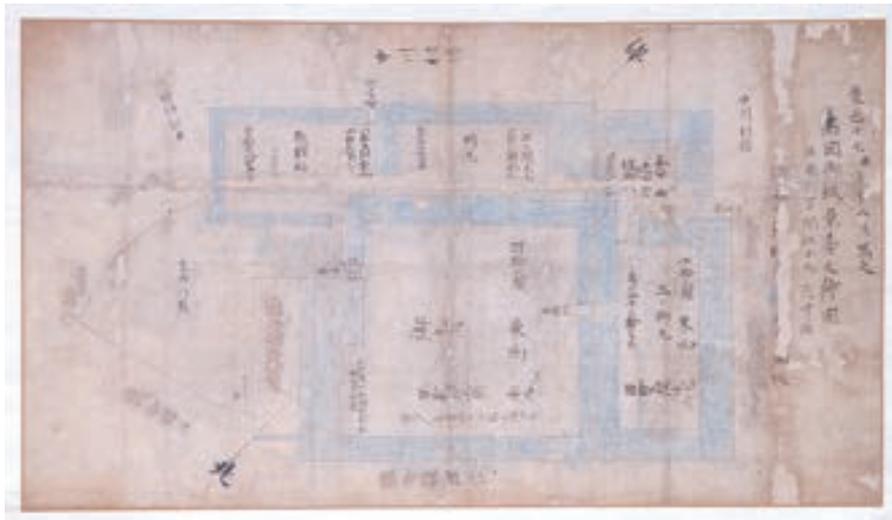
はじめに

加賀前田家2代当主前田利長(1562～1614)は、慶長14年(1609)高岡城を築城し、城下町高岡を開きました。同19年(1614)利長の死の翌年に城は廃城となりますが、3代利常の城下町から商工業の町へ転換する再興政策により、城の水堀くわや郭が良好に保存されました。明治8年(1875)には公園指定を受け、現在は「高岡古城公園」として人々に親しまれています。

本展では「高岡城跡」の国史跡指定(平成27年3月10日)を記念し、高岡城跡詳細調査(平成20～24年度)の成果をはじめ、高岡城跡及び高岡古城公園の絵図・地図や古写真などの関係資料を展示・紹介します。

1 絵図にみる高岡城

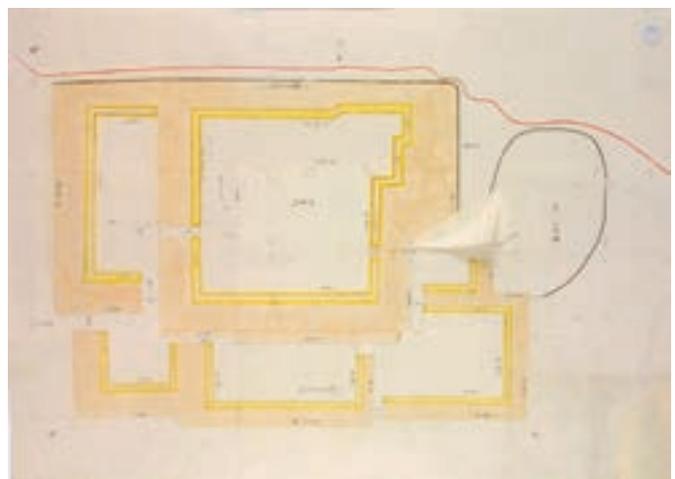
高岡城は、築城当時の郭や水堀が良好に残され、近年は城の縄張なわばりについて様々な研究が進められています。縄張の基本構造は「連郭式+梯郭式」の「聚楽第型」とよばれ(古川知明氏)、中央に巨大な本丸を設けた周囲に郭と郭を土橋で連結させ、数珠繋ぎのように配した「重ね(連続)馬出うまだし」(佐伯哲也氏)をもつ特徴などを挙げています。また本丸を取り巻く5つの郭は全て馬出で、これらを2重に重ねて構成している点から聚楽第型をより発展させた防御力の高い城(高岡徹氏)であるとし、「日本を代表する城郭設計の城」(千田嘉博氏)と高い評価がなされました。これら縄張の特徴は、今にのこる近世の高岡城図からも確認することができます。



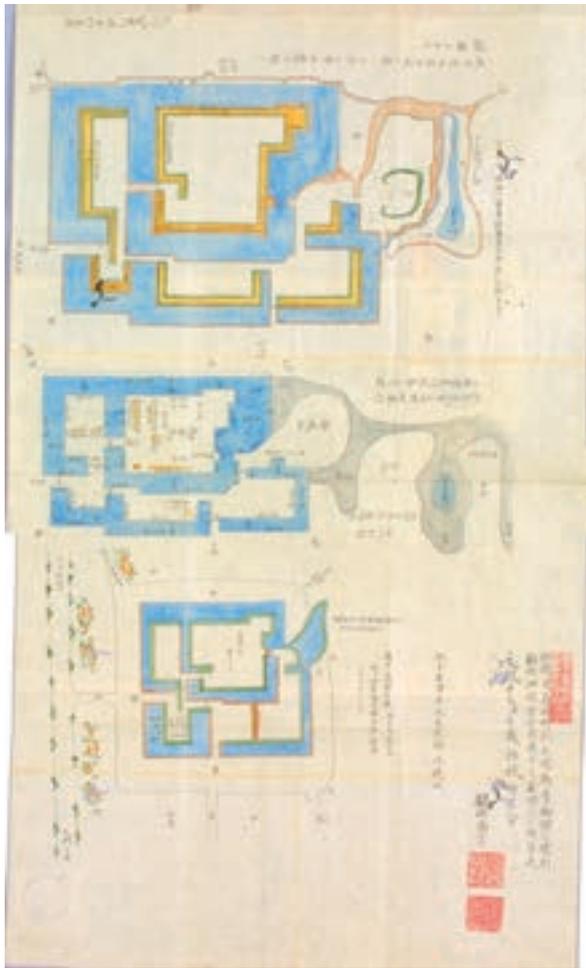
高岡御城景台之絵図 慶長17年(1612)8月写
高岡市立中央図書館蔵



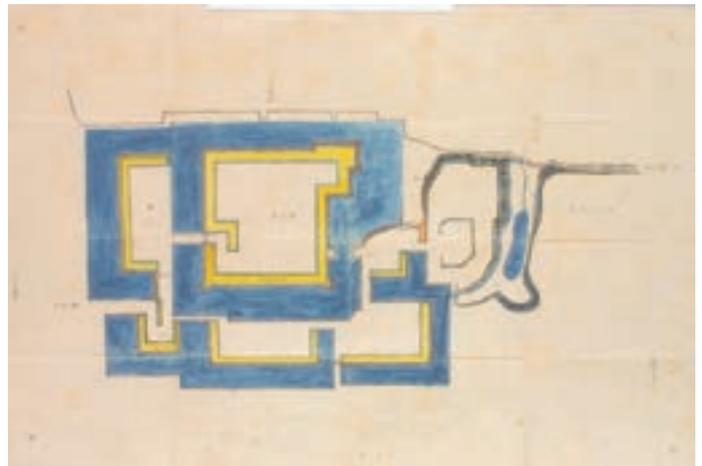
越中高岡古城址之図 寛政12年(1800)
石川県立図書館蔵



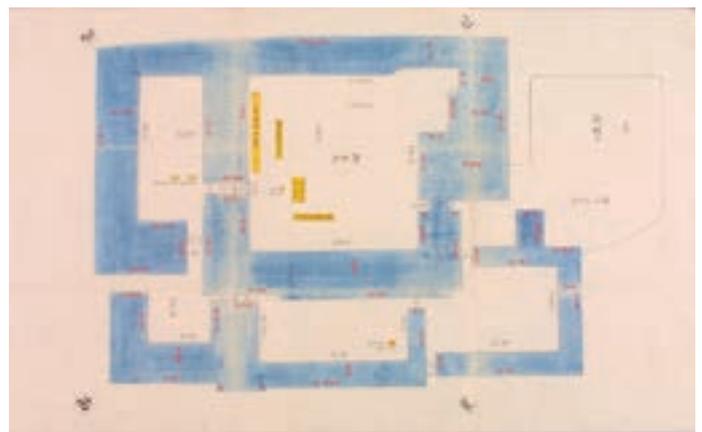
高岡古城之図 文政4年(1821)
金沢市立玉川図書館蔵



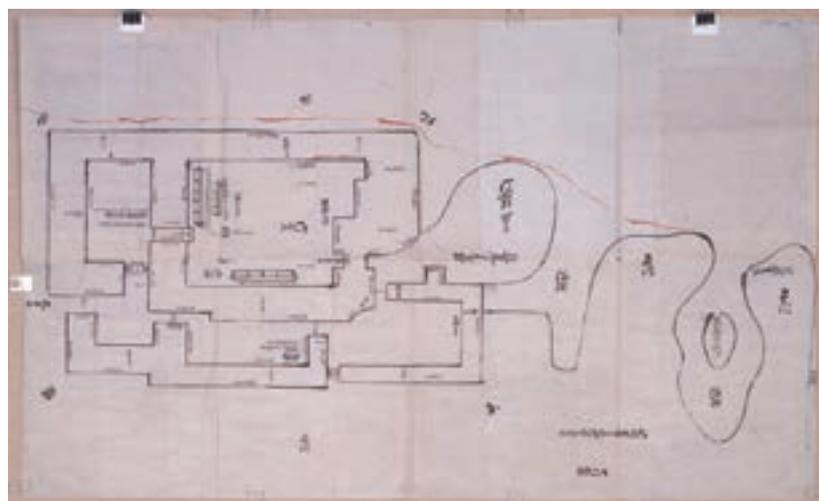
高岡城之図 文政13年(1830)写
金沢市立玉川図書館蔵



越中高岡古城図「大図」 江戸期
金沢市立玉川図書館蔵



高岡旧城図 江戸期
金沢市立玉川図書館蔵



高岡城古図 江戸後期
高岡市立中央図書館蔵

2 高岡城跡詳細調査の成果

高岡市教育委員会は、平成20～24年度にかけて「高岡城跡詳細調査」(史料、測量、発掘、石垣、石切丁場^{いしきりちょうば}関連等の8調査)を実施しました。測量調査では全体面積が217,694㎡(うち堀は81,071㎡)と算出されました。

発掘調査では、本丸の6つのトレンチから計16個の礎石^{そせき}が確認され、その分布状況から約50m四方以上の大型建物(御殿の可能性)が確認されました。また射水神社境内裏より2段の石積み遺構が確認され、「貫土橋」(現・朝陽橋^{あさひようばし}付近)からは、橋台石垣と想定される栗石層^{くりいし}などが検出されました。また石切丁場関連調査では、築城に関わる採石伝承記録『由来書帳』(享保7年、阿良加志比古神社^{あらかしひこじんじゃ}蔵)にある「大人之足跡^{おびのあしあと}」とよばれる石切丁場が現地確認されるなど、本詳細調査により数々の新発見をはじめとする貴重な成果を得ることができました。



▲「本丸礎石検出状況」平成23年(2011)
高岡市教育委員会提供



●「射水神社区域 石積み遺構検出状況」平成24年(2012)
高岡市教育委員会提供



◎「明丸土塁」平成23年(2011)
高岡市教育委員会提供



◎「貫土橋 栗石検出状況」平成23年(2011)
高岡市教育委員会提供



「七尾市庵町白鳥地内『大人の足跡』 平成24年(2012)
高岡市教育委員会提供



『由来書帳』 享保7年(1722)
阿良加志比古神社(七尾市)蔵



「氷見市 虻が島全景」 平成24年(2012)
高岡市教育委員会提供

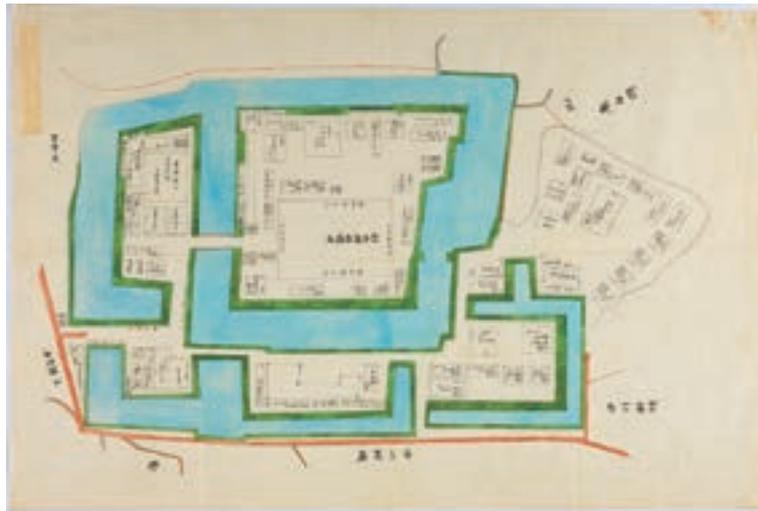


「本丸一二の丸の石垣」(外堀側) 平成21年(2009)
高岡市教育委員会提供

3 城跡から公園へ

江戸初期の廃城にともない、3代利常は水堀を埋め立てず保存し、城跡は破壊の危機を免れました。明治初期にも城跡は**はいた**の危機がありました。現在の高岡市長に相当する職にあった**はっとり かじゅうろう** (1845~80)ら有志は、落札者たちを説得し、公園指定の**せいがんしょ**を**にいかわけん** (現・富山県)に提出しました。これには現在に通じる公園整備の構想が既に描かれていました。同8年7月4日、高岡城跡は正式に公園に指定されました。

その後、明治42年(1909)の皇太子行啓や昭和26年(1951)の高岡産業博覧会などの際に公園整備は進み、現在も広く市民に親しまれています。今後は、国史跡「高岡城跡」としても整備が期待されます。



高岡城跡落札区分図(写) 昭和初期写(原図は明治5年頃)
当館蔵



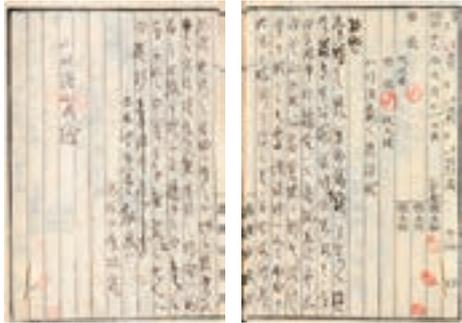
高岡公園指定請願書(案) 明治7年(1874)7月
当館蔵



高岡古城蹟公園境界実測絵図 明治8年(1875)10月3日
高岡市立中央図書館蔵



公園設計の義につき伺書 明治36年(1903)4月
市農商務係書記・高木太八郎から高岡市長宛
当館蔵



小川治兵衛宛挨拶状(案) 明治36年(1903)4月21日
高岡市長・堀二作から小川治兵衛宛
当館蔵



絵葉書「高岡古城公園」(土橋石垣)
明治40~大正6年(1907~17)頃
当館蔵



高岡公園改良設計図 明治44年(1911)9月
当館蔵



高岡公園現況図 昭和23~25年(1948~50)頃
当館蔵



高岡産業博覧会 会場案内 昭和26年(1951)
当館蔵

特別展「国史跡指定記念 高岡城跡の魅力」出品リスト

1. 絵図にみる高岡城

| No. | 資料名称 | 年代 | 点数 | 寸法 (縦×横,cm) | 備考 | 所蔵先など |
|-----|-------------------------------|------------------------|----|----------------|---|------------------------------------|
| 1 | 前田利長書状(小塚秀正宛) 〔複製〕 | 〔慶長14年(1609)〕 4月12日 | 1 | 33.0×50.0 | 木町の町人らの望む良い所に土地を最初に与える。駿府(徳川家康)よりの築城許可を得た使者が、帰り次第に町割りを命令するとある | 当館 〔原本・木町自治会〕 |
| 2 | 前田利長書状(神尾之直宛) 〔写真パネル〕 | 〔慶長14年(1609)〕 8月3日 | 1 | — | 築城工事は仕上げの段階だが、「しん丸」の未完部分を平夫(労働課役)にてもやり遂げるように指示 | 原本・ (公財)前田育徳会 |
| 3 | 前田利長書状(神尾之直・ 松平康定宛)〔写真パネル〕 | 〔慶長14年(1609)〕 9月5日 | 1 | — | 工事も目途が立ったので、加賀よりの人足の帰国を指示したが、3分の1は残すように指示 | 原本・ (公財)前田育徳会 |
| 4 | 前田利長書状(神尾之直宛) 〔複製〕 | 〔慶長14年(1609)〕 9月18日 | 1 | 36.8×54.4 | 入城5日後に二の丸の門と櫓の増築を指示 | 当館〔原本・ (公財)前田育徳会〕 |
| 5 | 関野之古図(写) | | 1 | 55.0×79.0 | 関野は高岡の旧名。扇面枠内に描かれた高岡の想像図「関野之古図」(高岡市立中央図書館蔵)を明治初期に平面に起こして、町割、道路などを重ねたもの。本図は『高岡史料』(高岡市、1909年)付属図の写し | 当館 |
| 6 | 高岡御城景台之絵図 | 慶長17年 (1612)8月写 | 1 | 46.5×81.8 | 築城の3年後に写された年代的には最古の城絵図。しかし明治期以降に写された可能性が高い。各郭にはそれぞれ東西と南北の間数(長さ)と歩数(面積)、名称が記される。本丸と梅林(小竹藪)を結ぶ地点には「貫土橋」、本丸北隅には「御材木御蔵」などの記述も見られる。手写。彩色 | 高岡市立中央図書館 |
| 7 | 『射水郡分記録等抜書』 | 江戸中期 | 1 | 12.0×18.0 | 上記絵図と内容が多く共通。縄張は高山南方(「坊」の誤記。右近の号)と山崎閑斎(長徳)が手がけたと記す | 塚本幸史氏 |
| 8 | 越中高岡古城址之図 | 寛政12年(1800) | 1 | 48.0×36.0 | 加賀藩士・田辺政己の手写。本図の上段に高岡城の概説が記される。土塁は墨で太く描かれ、米・塩蔵が配置されている。明丸には「塩硝蔵」、鍛冶丸と二の丸の間の堀には「舛形ホリ」の記述がある。 | 石川県立図書館 (「森田文庫」) |
| 9 | 『越登賀三州志』 「故墟考 卷之一」 | 寛政13年(1801) | 1 | 27.0×19.8 | 加賀藩の郷土史家・富田景周(1746～1828)著。通称・三州志。6部39巻からなる加賀及び加賀藩の歴史地理書。「故墟考 卷之一」には、各地の古城跡を伝承・記録をもとに考察しており、高岡城の詳細を記す。版本 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財 「加越能文庫」) |
| 10 | 高岡古城之図 | 文政4年(1821) | 1 | 115.0×83.0 | 同年の高岡大火後の見分役人が作成した絵図を、津田宇兵衛より借り写したもの。本図には蔵などの建物、間数及び土塁が詳しく描かれる。手写。彩色 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財 「加越能文庫」) |
| 11 | 高岡城之図 | 文政13年(1830) | 1 | 65.5×38.5 | 高岡古城図3図を1図にまとめたもので、脇田尚方が金谷武英所蔵図を写したもの。上段から小川図、小堀図、有澤図。富田景周原図作製。手写。彩色 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財 「加越能文庫」) |

| | | | | | | |
|----|---|------------|---|------------|--|--------------------------------|
| 12 | 『関ノ観音寺由緒』 | 天保5年(1834) | 1 | 18.0×24.0 | 関町の総持寺(別名・観音寺)住職が新城地の地鎮祭をしたなどの記録 | 高岡市立中央図書館 |
| 13 | 越中高岡古城図「大図」 | 江戸期 | 1 | 58.0×80.0 | 黄色で土塁、鍛冶丸と明丸間の堀(枳形堀)中には湧水点を示す「㊤」が3つある。本丸と小竹藪を結ぶ箇所には「橋台」とあり、両岸に石垣が描かれていることが分かる。手写。彩色 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財「加越能文庫」) |
| 14 | 高岡旧城図 | 江戸期 | 1 | 89.0×53.0 | 堀や郭の間数、建物が細かく記されている。本丸と二の丸の間を結ぶ「御門」、二の丸と鍛冶丸の間には「ヤライ(矢来)門」が描かれ、搦手口は柵により封鎖されていたことが読み取れる。手写。彩色 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財「加越能文庫」) |
| 15 | 高岡城古図 | 江戸期 | 1 | 108.5×65.8 | 高岡町奉行・小堀金五右衛門政布(在職:1842～53)が提出した絵図。本丸には柿葺きの御収納米蔵2棟と御詰塩蔵1棟などが描かれ、二の丸には番人御貸家(官舎)、明丸には鉄砲薬(硝煙)の土蔵が見られる。手写。一部朱線引き | 高岡市立中央図書館 |
| 16 | 高岡古城跡見取絵図(部分写真) | 明治初期頃 | 1 | — | 本丸東北辺中央に、貫土橋橋台石垣から北西へ連なる石垣の表現がある。高岡城跡詳細調査による新発見 | 原本・ 金沢市立玉川図書館 |
| 17 | 『慶長寛文間書類四種』 「慶長拾四年六月十五日 高岡ノ御普請ノ覚」 | 明治期写 | 1 | 23.2×16.8 | 能登よりの高岡城普請夫役2,145人の割当記録。能登鹿島郡十村・真箇家旧蔵 | 金沢市立玉川図書館 (石川県指定文化財「加越能文庫」) |
| 18 | 『瑞龍院様高岡ニ御築城ノ件』 | 明治期写 | 1 | 24.0×17.5 | 利長(瑞龍院)没後、廃城となった後の高岡城跡の様子がわかる記録。藩の蔵などの建物の大きさのほか、三の丸には畑があったことなどが記される | 高岡市立中央図書館 |

2. 高岡城跡詳細調査の成果

| No. | 資料名称 | 年代 | 点数 | 寸法 (縦×横,cm) | 備考 | 所蔵先など |
|-----|----------------------|-------------|----|----------------|---|----------|
| 1 | 写真「高岡城跡 全景」 | 昭和後期 | 1 | — | 高岡駅を背に市街地南西から城跡全体を写した航空写真 | 高岡市教育委員会 |
| 2 | 写真「本丸礎石検出状況」 | 平成23年(2011) | 1 | — | 建物の柱を支える礎石が3基並列して検出。築城期における本丸御殿の建物遺構の可能性が確認された | 高岡市教育委員会 |
| 3 | 高岡城跡本丸出土資料 | — | 74 | — | 高岡城跡本丸からの出土資料。播鉢片、瓦片、土師器片などが出土した | 高岡市教育委員会 |
| 4 | 高岡城跡三の丸周辺出土丸瓦 | 廃城時期 | 1 | 径9.6×幅4.0×厚2.1 | 燻し瓦。廃城後の三の丸周辺に何らかの瓦を使用した建物の存在が裏付けられる資料。採集者は故・林寺厳州氏。外区は珠文帯9個が残り(推定12個)、内区は巴文 | 高岡市教育委員会 |
| 5 | 高岡城跡三の丸周辺出土丸瓦実測図(複写) | — | 1 | — | 上記資料の実測図 | 高岡市教育委員会 |
| 6 | 写真「射水神社区域石積み遺構検出状況」 | 平成24年(2012) | 1 | — | 2段の石積み遺構が検出。本丸を囲む土塁(射水神社境内裏)を作る際に作られ、本丸御殿と同時期であると考えられる。検出した花崗岩には「卍」刻印と矢穴2箇所が確認された | 高岡市教育委員会 |

| | | | | | | |
|----|----------------------|-------------|---|-----------|---|--------------|
| 7 | 写真 「貫土橋 栗石検出状況」 | 平成23年(2011) | 1 | — | | 高岡市教育委員会 |
| 8 | 写真「明丸土塁」 | 平成23年(2011) | 1 | — | 明丸土塁(現・動物園裏手)の状況。本土塁は現在残る城跡の中でも、保存状況もよく、大量の盛土で造成されたことが判明した。急斜面であり土塁の平坦面には土坑状の遺構が確認された | 高岡市教育委員会 |
| 9 | 高岡城跡主要法量一覧表 | — | 1 | — | 城跡全体の長さ648.0m×幅416.5m。堀は城跡の総面積(217,694㎡)の約37%を占める81,071㎡ | 高岡市教育委員会 |
| 10 | 本丸広場石垣材位置図 | — | 1 | — | 平成16年に和田川(射水市大門新)から引き揚げられ本丸広場に置かれた石垣材計14個の位置図 | 高岡市教育委員会 |
| 11 | 石垣材観察表 | — | 1 | — | 本丸広場14個と博物館4個の計18個の石垣材の観察表 | 高岡市教育委員会 |
| 12 | 高岡城の石切丁場推定地 | — | 1 | — | 高岡城の石垣石材産地を示した図。東は早月川流域、北は七尾湾周辺の広範囲にわたる | 高岡市教育委員会 |
| 13 | 写真「七尾市庵町白鳥地内『大人之足跡』」 | 平成24年(2012) | 1 | — | 築城に関わる石材の調達状況と享保7年(1722)『由来書帳』(七尾市・阿良加志比古神社蔵)に記される採石伝承が現地確認できる貴重な石切丁場の一つ。矢穴や分割面のある石が7個以上確認された | 高岡市教育委員会 |
| 14 | 『由来書帳』 | 享保7年(1722) | 1 | 24.4×16.3 | 築城に際し、能登灘浦大呑郷浦筋から普請の用材・用石として神木を含む材木や往來の石材などが切り出されたことが読み取れる採石伝承記録。七尾市庵町白鳥地内にある「大人之足跡」がその遺跡とされる | 七尾市・阿良加志比古神社 |
| 15 | 写真「本丸一・二の丸の石垣」 | 平成21年(2009) | 1 | — | 高岡城の本丸と二の丸を結ぶ土橋の石垣(外堀側837個)。外堀・内堀合わせて計1,700個が確認。石材は全体で砂岩(54.8%)・花崗岩(27.3%)・安山岩(17.9%)の3種類。刻印は内堀側360個、外堀側389個の計749個が確認 | 高岡市教育委員会 |
| 16 | 本丸土橋石垣石材分布図 | — | 1 | — | 本丸土橋の外堀・内堀の石垣を石材別に図式化したもの。石自体の年代は慶長期のものであるといえる | 高岡市教育委員会 |
| 17 | 刻印分類表 | — | 1 | — | 刻印数は全体で749石(うち外堀389石・内堀360石)、刻印の種類は組み合わせも含めて127種類確認された | 高岡市教育委員会 |
| 18 | 写真「氷見市 虻が島全景」 | 平成24年(2012) | 1 | — | 築城の際の石垣に用いる石材を切り出す石切丁場の一つ。刻印や矢穴割石などの加工された石が多く残る。刻印は15種類(うち複数個となるものは8種類)確認された | 高岡市教育委員会 |
| 19 | 平成23年度発掘調査区位置図(夏季) | — | 1 | — | 当該年度(夏季)に行われた本丸での発掘調査位置図 | 高岡市教育委員会 |

| | | | | | | |
|----|--------------------|---|---|---|---|----------|
| 20 | 平成23年度発掘調査区位置図(秋季) | — | 1 | — | 当該年度(秋季)に行われた本丸・貫土橋(現・朝陽橋)・明丸・梅苑での発掘調査位置図 | 高岡市教育委員会 |
| 21 | 平成24年度発掘調査位置図 | — | 1 | — | 当該年度に行われた射水神社・本丸虎口・児童公園・貫土橋地区での発掘調査位置図 | 高岡市教育委員会 |

3. 城跡から公園へ

| No. | 資料名称 | 年代 | 点数 | 寸法 (縦×横,cm) | 備考 | 所蔵先など |
|-----|--------------------|----------------------|----|----------------|---|-----------|
| 1 | 高岡城跡落札区分図(写) | 昭和初期 (原図は明治5年頃) | 1 | 61.5×41.5 | 高岡城跡の落札者ごとに区分したと思われる絵図。のべ347名81区画に区分けされている | 当館 |
| 2 | 高岡公園指定請願書(案) | 明治7年(1874)7月 | 1 | 23.5×17.3 | 第17大区々長・服部嘉十郎(1845～80)から新川県権令・山田秀典宛。本資料には植栽や園路、架橋のほか博物館や美術館、図書館など公園整備の構想が描かれている | 当館 |
| 3 | 写真「服部嘉十郎氏頌徳碑」 | 昭和30年 | 1 | — | 公園指定に奔走した第17大区々長・服部嘉十郎の功績を讃え、公園指定80周年にあたる同年、中の島に建立された | 当館 |
| 4 | 高岡古城蹟公園境界実測絵図 | 明治8年 (1875)10月3日 | 1 | 39.7×191.0 | 同年7月4日に正式に「高岡公園」となったのをうけて、高岡町及び周辺の村々(湊分・下関村・中川村)と第16・17大区との境界を実測して取り決めたもの。彩色 | 高岡市立中央図書館 |
| 5 | 「公園地所四隣各村境界支分間数帳」 | 明治8年 (1875)9月 | 1 | 12.0×17.7 | 高岡城跡が明治8年に公園指定された後の同年10月3日、高岡町と周辺の村々がその境界線を実測して取り決めた際の添付資料。境界杭73本の位置が詳細に記される | 当館 |
| 6 | 写真「高岡古城公園より二上山を望む」 | 明治11年(1878) | 1 | — | 同年9月の明治天皇行幸の際に撮影された写真。その後朝陽橋が架設される。写真奥に二上山がみえる | 高岡市 |
| 7 | 写真「造成される中の島」 | 明治40年頃 | 1 | — | 市が明治42年の皇太子(のちの大正天皇)北陸行啓を前に、湊町深田の1,365坪を購入して公園に編入し造成された | 高岡市 |
| 8 | 高岡公園関係綴 | 明治36～昭和14年 | 7 | — | 植樹などの公園景観整備、催事開催・売店等設置に伴う公園地使用願、公園内の蓮根・落葉の採取願、公園設計に京都出身の庭師・小川治兵衛(弟子・広瀬万次郎)の関わりを示す文書などが綴られている(計7冊1,319点) | 当館 |
| 9 | 公園設計の義につき伺書 | 明治36年 (1903)4月2日 | 1 | — | 高岡市農商務係書記・高木太八郎が、高岡公園設計のため、京都の作庭家・小川治兵衛を呼び寄せてもよいか市長に伺う文書。高岡公園関係綴のうち | 当館 |
| 10 | 公園費支出伺書 | 明治36年 (1903)4月18日 | 1 | — | 高岡公園設計のため、広瀬万次郎を高岡に呼び寄せるための費用を、公園費より支出してもよいか伺う文書。報酬として7日間の滞在で25円を支払うとしている(うち汽車賃は10円)。高岡公園関係綴のうち | 当館 |

| | | | | | | |
|----|---------------------|------------------------|----|------------------------|--|--------------|
| 11 | 小川治兵衛宛挨拶状(案) | 明治36年 (1903)4月21日 | 1 | — | 高岡市長・堀二作から京都の作庭家・小川治兵衛に宛てた挨拶状の案。小川は多忙のため、弟子・広瀬万次郎を高岡へ派遣した。広瀬の設計は大好評で、後日設計工事に入る際には、陣頭指揮を執ってもらえるよう、広瀬が高岡来訪を依頼する内容。高岡公園関係綴のうち | 当館 |
| 12 | 高岡公園改良設計図 | 明治44年(1911) | 1 | 142.0×105.0 | 高岡市が長岡安平(1842～1925)に依頼した高岡公園の改良設計図。明治42年の皇太子北陸行啓を機に公園の大改修が行われ、中の島の造成(同40年)や会社・民家などの撤去、植栽などが行われた。縮尺1/600。紙本彩色 | 当館 |
| 13 | 高岡公園建造物参考図 | 明治末期 | 5 | — | 高岡市が長岡安平(1842～1925)に依頼した高岡公園の改良設計を依頼した際の公園各所のイメージ図。5冊(46点)にわたって綴られている | 当館 |
| 14 | 写真「射水郡役所」 | 明治末期 | 1 | — | 明治14年(1881)10月、鍛冶丸に建設。大正12年(1923)の郡制廃止まで存続した | 高岡市 |
| 15 | 写真「高岡区裁判所」 | 明治14年(1881) | 1 | — | 同年11月、二の丸に検事局、富山監獄高岡出張所と共に設置された。大正13年5月に中川(現在地)へ移転した | 高岡市 |
| 16 | 高岡城跡(高岡古城公園) 絵葉書 | 明治～昭和期 | 30 | — | 城跡内の各所で撮影された写真絵葉書 | 当館 |
| 17 | 高岡公園現況図 | 昭和23～25年 (1948～50)頃 | 1 | 39.0×61.0 | 昭和26年(1951)の高岡産業博覧会に向けての改修が行われる前の公園の様子がよくわかる地図。本丸に野球場、二の丸にバレーボールコート4面、三の丸には相撲場とバスケットコート2面、明丸に武徳殿(柔剣道場)とテニスコート4面など。縮尺1/1500 | 当館 |
| 18 | 高岡産業博覧会 会場案内 | 昭和26年(1951) | 1 | 36.3×54.0 | この年の4月5日から5月25日まで古城公園を会場に行われた高岡産業博覧会の会場案内図。50日間の会期中で62万人を超える来場者数を数えた | 当館 |
| 19 | 高岡古城公園の空間構成の変遷図 | — | 1 | — | 明治8年(1875)の公園指定から現在までの空間構成・土地利用・施設の変遷についてまとめたもの | 高岡市教育委員会 |
| 20 | 写真「高岡城下町と二上山」 | 平成24年(2012) | 1 | — | 高岡城跡を中心に高岡市街地を写した航空写真。北側には二上山も見える | 高岡市 |
| 21 | 模型「高岡城跡」 | 平成21年(2009) | 1 | 幅92.0×奥行 65.0×高18.0 | 高岡城跡の模型。材質・樹脂 | 富山県埋蔵文化財センター |

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。

※写真・複写物・複数資料の寸法は割愛しました。

計60件172点

特別展「国史跡指定記念 高岡城跡の魅力」パンフレット

発行日：平成27年7月25日

編集・発行：高岡市立博物館(富山県高岡市古城1-5) / TEL 0766-20-1572 / <http://www.e-tmm.info/>

印刷：平田印刷株式会社(高岡市野村1485)